

マックス株式会社 2024 年3月期第3四半期決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2024 年 1 月 31 日（水）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

コンクリート構造物向け工具の第3 四半期売上実績を教えてください。

〔回答 1〕

コンクリート構造物向け工具の第3 四半期（3 ヶ月間）の売上実績は、国内 1 5 億円、海外 6 1 億円となりました。国内・海外合計は 7 6 億円で 8 % の伸長です。前年同期の実績は、国内 1 4 億円、海外 5 7 億円でしたので、国内は 1 2 % の伸長、海外は 7 % の伸長となりました。

機械と消耗品でみると、国内の機械は 1 6 %、消耗品は 1 5 % の伸長となりました。海外の機械は 1 5 % の減少、消耗品は 1 3 % の伸長となりました。

数量ベースでは、北米は機械 5 % 減、消耗品 1 1 % 増、欧州は機械 3 7 % 減、消耗品 7 % 減、国内は機械 1 7 % 増、消耗品横ばいとなりました。

〔質問 2〕

鉄筋結束機の欧州での状況について詳細を教えてください。

〔回答 2〕

弊社の主力市場であるドイツや北欧では市況の影響で厳しい状況が続いています。一方で、市況が堅調なイタリアやスペイン、イギリス、ルーマニアなどでは実績も伸長しています。現時点では、販売ボリュームの大きいドイツや北欧の減少分をカバーできていませんが、堅調なエリアへの活動を着実に進めることで、欧州全体での販売数量増を目指していきます。

〔質問 3〕

第3 四半期（3 ヶ月間）は日本国内にて鉄筋結束機の機械の販売台数が前年同期比で増加していますが、要因を教えてください。

〔回答 3〕

1 2 月に発売した鉄筋結束機の新製品「RB-442T」の効果によるものです。本格的な市場展開は第4 四半期以降となりますが、第3 四半期では買換えよりも買増し需要が多い印象であり、今後の拡販の余地は一定程度あるものと考えています。

〔質問 4〕

国内での鉄筋結束機事業の拡大に向けた販売チャネルの見直しに関する考え方を教えてください。

〔回答 4〕

国内の鉄筋結束機の普及率は概ね 5 割程度と推測しており、海外と比較すると普及は進んでいます。販売チャネルについては、全国的に鉄筋結束機の拡販が可能なルートを既に整備しておりますので、さらに開拓するよりも、既存のルートを活用した拡販に注力します。

〔質問5〕

北米でプロモーションを実施したにもかかわらず、鉄筋結束機の機械の販売数量が前年から伸びていない背景を教えてください。

〔回答5〕

前期の北米の実績は、バックオーダーの解消やディーラーの在庫調整などで安定せず、四半期毎に通常以上に増減していました。結果として、第3四半期(3ヶ月間)では機械の販売数量は前年からやや減少していますが、第3四半期累計では、機械・消耗品ともに堅調に推移しています。

〔質問6〕

鉄筋結束機「ツインタイヤ」新製品の海外での販売予定について教えてください。

〔回答6〕

海外でも順次展開予定です。

〔質問7〕

北米における鉄筋結束機の普及率を教えてください。

〔回答7〕

概ね2割程度の普及率と捉えており、普及の余地があると考えています。

■全社状況について

〔質問8〕

時価総額対比で株式の流動性が低いと感じていますが、政策保有株式を含め、どのように考えているか教えてください。

〔回答8〕

株式の流動性の低さは課題であると認識しています。弊社の株主構成は金融機関が一定程度を占めていますが、金融機関が保有する弊社株式については将来的には放出の流れになると考えており、それらの対応を含め、株式の流動性を改善していきたいと考えています。また、弊社が保有する政策保有株式についても、縮減する方向性としています。

〔質問9〕

新たな中期経営計画の発表を予定していると思いますが、投資家の理解がより深まる情報の開示を検討してほしい。

〔回答9〕

2024年3月期通期の決算説明会で新たな中期経営計画の発表を予定しており、投資家の皆さまにとって、わかりやすい情報の開示に努めたいと考えています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が2024年1月31日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。